



第34回 市教組定期大会、開催される！NO.4

今大会で論議されたものです。

篠田代議員からの質問①

今日は養護教員部の立場から2点、一分会員の立場から組織拡大について1点の質問をさせていただきます。

まず、フッ化物洗口についてです。小学校完全実施がなされ3年目を迎えました。

幸いなことに大きな事故もなく、学校においてもスムーズに進められているのではないのでしょうか。とは言え、子どもたちの薬剤に対する感受性もそれぞれ違う中で、薬剤を学校に持ち込んで一律に洗口させ、それを歯科保健教育とする安易な考えの教育委員会学校保健課には引き続き話し合いを求めずにはいられません。もしもフッ化物洗口実施にあたり何かしらの事故や健康被害など子どもたちにとって著しい不都合が起こった場合、責任の所在はどこにあるか、教委保健課の見解が分かればお知らせください。



① 鶴田養護教員部長の答弁

保健課との意見交換では、当初「市教委の責任は実施手順通りの出なかった場合の事故の責任は、それぞれの立場で」と言っていましたが、昨年度の組合との意見交換では、「故意でなければ、市教委の責任」と言ってくれました。ただ、校長は・・・と言葉を濁しましたので、全然責任がないとは言いませんでした。しかし、保護者の前に立つのは、担任や養護教諭や関係した現場の教員です。マスコミもミスの原因を学校に求めることでしょう。市教委も歯科医師会も「こんなに学校が忙しい中、学校が希望もしていない、教育でもないことを、医師でも薬剤師でもない者に希釈させて実施させているからだ」とは言ってくれません。事実、過去に他県で起きた希釈ミス等でも、新聞記事は皆、担任や希釈した者の確認を怠ったと報道しています。



例えば、2021年新潟県の小学校で、朝、学級担任がフッ化物洗口液を紙コップに入れて児童に配布する際、誤って近くにあった手指消毒用アルコールを入れて配った。児童24人全員がはき出し、受診したが重い症状はなかった、というニュースがありました。危ないから止めようという話にはならなくて、今後は、作業台に不必要なものを置かないことや、洗口前に液体のにおいを確認することなどの「再発防止策を徹底する」で終わっています。児童に何事もなくとも、この時の、学校の保護者、マスコミ等の対応、担任のストレス等どんなものだったのでしょうか？

事故はマニュアル通りいかないから起こるものです。食物アレルギーの事故も毎年一定数起こっているように、人がすることなので、人的ミスは起きると考えるべきです。

また、アレルギーや過敏症、など非常に少ない物質ですが、ないわけではないです。吐き気などは軽い中毒症状です。そちらの注意も必要です。学校で薬剤を口に入れさせるような危険なことしているということを忘れてはいけないと思いますし、すべきではないと思います。

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！

///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL(093)953-0381

